

要配慮者支援組織の取組み事例

5つのカテゴリー（見守り、研修会、イベント、防災訓練、名簿等の作成）に分けて市内組織の取組みを紹介します。

要配慮者支援組織の取組み事例



1. 見守り

見守り方法や支援体制の検討を行うとともに、定期的に見守り活動を行います。

- 地域で見守りを希望する方及び見守り支援者を募集し、見守り体制を整えた。
- 回覧板、市報・広報誌の配布や集金にあわせて見守りを行うことで、期間を空けることなく見守りを行っている。
- 郵便物がたまっていないか、またゴミ出しの状況や夜間に電灯がつけっぱなしになっていないか定期的に見てまわっている。
- 高齢者宅に訪問し、日常の困りごと相談や依頼を受け、見守り記録表に残す（民生委員や福祉推進員とも共有し連携する）。
- 要配慮者宅に防犯ベル、災害対策（レインコート、防寒・防雨）用品等を配布した。
- 要配慮者宅の草刈り、除雪
- 小学生の登下校時の見守り



研修



要配慮者支援組織の取組み事例

2. 研修会

研修会を開催して意識啓発や知識の習得につなげます。
見守り活動を担う隊員の方等、支援者への研修会も開催します。

- 市の出前講座を活用し、要配慮者支援推進事業や自主防災組織について、また災害対策について学んだ。
- 島根県が開催している防災安全講習会に参加した。
- 災害時の口腔衛生についての研修会を開催した。
- 車いす操法研修を行い、災害時の支援に備えた研修を行った。
- 初期救急救命講習を開催した。
- 高齢者の対象に振り込め詐欺、悪徳商法について等の防犯に関わる講演会を行った。



要配慮者支援組織の取組み事例

地域交流
イベント



3. イベント

高齢者の方を集め、レクリエーション活動や会合等を開催することにより状況確認を行います。高齢者の居場所づくりや引きこもり防止につながります。

- ・ イベント（映画鑑賞会、茶話会、日帰り旅行、グランドゴルフ大会、夏まつり、そば打ち、笹巻など）に参加してもらうことで、外に出てもらう機会が増え、高齢者の居場所づくりに繋がった。
- ・ 懇親会などの交流活動を行うことで、世代を超えて顔の見える関係づくりに努めた。
- ・ コミュニケーション活動等に参加してもらうため、集会所までの送迎を行った。
- ・ 高齢者のふれあいの集いを開催し、健康づくり研修や、演芸鑑賞、カラオケ大会を行った。
- ・ 落葉の時期に公園の清掃活動を行い、高齢者の方々にも参加してもらったことで、状況確認にもつながった。
- ・ 地域の学校との交流事業を設け、ペタンクやソフトバレー、音楽会などを開催した。



要配慮者支援組織の取組み事例

4. 防災訓練

地域の防災訓練で安否確認や避難誘導等の訓練を行います。
また、独自にも訓練を開催し、地域の方々の意識啓発につなげます。



- 防災訓練に参加し、安否確認、避難誘導を行うことによって、地域の要配慮者支援に対する意識の向上を行った。
- 地域の要配慮者の家を確認し、災害時の支援方法や避難誘導等の確認を盛り込んだ訓練を行った。
- 災害別（風水害、津波、地震など）防災訓練を毎年行い、地域住民の防災意識向上につなげた。
- 防災訓練にあわせて、町内の一時避難所の周知を図った。
- 消火栓の位置確認や消火器の使い方を盛り込んだ訓練を行った。
- 災害時の情報伝達訓練として連絡網を作成し、連絡体制の見直しなどを行っている。
- 消防本部に依頼して地震体験車を呼び、地震時に備えるべき知識等の習得を図った。



要配慮者支援組織の取組み事例

5. 名簿等の作成

見守り対象者の名簿作成のため、訪問調査や台帳・マップ作成などを行います。また、作成した名簿等をもとに、平常時から災害時まで活用できるよう整えます。

- 台帳を作成し、住宅地図に独居高齢者世帯、昼間独居、障がいのある方等を色分けして書き出すことで災害時に迅速な支援につながるように整えた。
- 地域の見守り対象者の名簿は毎年調査を行い、更新している。
- 地域の状況を確認するため、空き家調査を行った。
- 災害時の緊急連絡先や避難場所を示した避難支援マップを作成し、配布した。

